親の期待と過剰適応との関連

○渡辺玲奈¹, 福島裕人², 遠藤歩¹

(¹ 東海学院大学, ² 鈴鹿医療科学大学)

キーワード: 過剰適応, 親の期待, 兄弟構成

The relationship between over-adaptation and parental expectations.

Rena WATANABE¹, Hiroto FUKUSHIMA², Ayumu ENDO¹

(¹Tokai gakuin univ., ²Suzuka univ. of medical science)

Key Words: over-adaptation, parental expectations, sibling members

目 的

過剰適応とは, 他者から期待されている役割・行為に対して, 自分の気持ちは後回しにしてでも, それらにこころをこめて応えようとする傾向である(石津, 2006)。過剰適応傾向の強い人は精神的健康を損ないやすいことがこれまでの研究で明らかにされている(益子, 2009)。親は子どもに「このような人間に育って欲しい」といった期待や教育目標を持つ。期待や願いが子どもを取り巻く環境を作り, 発達に影響を与えると考えられる。親の職業を子どもが継承する職業継承の現象の要因に親の期待があることが明らかになっており, これは親の期待や教育目標が子どもに影響することを示している(田中・小川, 1982)。また, 親の養育態度や期待は子どもの出生順位や兄弟構成に拠るところも大きいと考えられる。出生順位は家庭における社会的地位の差をもたらし, それが子どもの人格形成に影響を及ぼすことが指摘されている(白佐, 2004)。

以上のことから, 兄弟構成や人数の違いによって親の養育態度や期待が異なり, その影響を受けて過剰適応傾向が導かれることが考えられる。本研究では, 親の期待と過剰適応との関連について, 兄弟構成との関係も含めて検討することを目的とする。

方 法

調査対象 大学生 148 名を調査対象とし, 回答に不備があった者を除く 135 名(男性 55 名, 女性 80 名, 平均年齢 19.74 歳, $SD=1.04$)を分析対象とした。

質問項目 フェイスシート: 学年, 年齢, 性別, あなたは何人兄弟の何番目生まれですかという出生順位記入欄を設けた。過剰適応尺度(桑山, 2003): 「自分に対する自信のなさ」など対自的側面の特徴からなる対自因子 12 項目, 周囲によい印象を与えて是認される存在になろうとする他者志向の特徴からなる対他因子 10 項目を 5 件法で回答を求めた。親からの期待尺度(春日・宇都宮, 2011): 性格や人格への期待からなる人間性期待因子 17 項目, 教育や就職への期待からなる教育・就職期待因子 10 項目, 期待が重荷であったと評価する重荷因子 12 項目, 期待を励みにしたと評価する励み因子 6 項目, 期待を受容し積極的に応じる態度からなる受容・積極型行動因子 4 項目, 期待に応える可否が葛藤した態度からなる回避・葛藤型行動因子 4 項目, 期待に対する行動への評価について, 肯定的に捉えていると評価する過去の行動への肯定感因子 6 項目を 5 件法で回答を求めた。

結 果

過剰適応尺度の各因子と親からの期待尺度の各因子について男女差を検討したところ(t 検定), 対自因子($t(133)=-2.07$, $p<.05$), 重荷($t(133)=-2.03$, $p<.05$)で有意差がみられ, それぞれ女性の方が男性よりも得点が有意に高かった。よって以後の分析は男女別に検討した。兄弟人数別の過剰適応尺度の各因子と親からの期待尺度の各因子について一元配置分散分析を行った結果, 男性は対自因子($F(2,52)=4.44$, $p<.05$)と対他因

子($F(2,52)=3.90$, $p<.05$)において有意差がみられた。多重比較の結果, 対自因子では 3 人兄弟以上が 2 人兄弟に比べ有意に得点が高く, 対他因子では, 3 人兄弟以上が一人っ子に比べ有意に得点が高かった。次に親からの期待や兄弟人数が過剰適応へ及ぼす影響を検討するため, 親からの期待尺度の各因子と兄弟人数を独立変数, 過剰適応尺度の各因子を従属変数とする重回帰分析を行った(Figure 1, 2)。その結果, 男性では対自因子へ, 回避・葛藤型行動($\beta=.26$, $p<.05$)が有意な正の影響, 過去の行動の肯定感($\beta=-.32$, $p<.05$)が有意な負の影響を与えていた。また対他因子へは人間性期待($\beta=.41$, $p<.001$), 兄弟人数($\beta=.25$, $p<.05$)が有意な正の影響を与えていた。女性では対自因子へ重荷($\beta=.43$, $p<.001$)が, 対他因子へは励み($\beta=.36$, $p<.01$)がそれぞれ有意な正の影響を与えていた。

Figure 1 重回帰分析(男性)

Figure 2 重回帰分析(女性)

考 察

本研究では親の期待と過剰適応との関連について兄弟構成との関係も含めて検討した。 t 検定の結果, 女性は男性よりも自分に自信がなく欲求を我慢しがちで, 期待を重荷と捉える傾向が高かった。このことから女性は男性よりも自分の意見や感情を抑圧してでも他者評価を重視し, 仲間との同調を望む傾向にあることが示唆された。期待を重荷としやすいことも, 自分にに対する自信のなさに関連していると考えられた。さらに, 一元配置分散分析の結果, 男性のみにおいて, 対自因子と対他因子の両方で兄弟を 3 人以上持つ群の得点が高かった。重回帰分析では男性において兄弟人数が対他因子へ正の影響を与えていた。つまり兄弟人数が多いことは自分をよく見せようとする傾向が高いことが示唆された。さらに人間性について期待を受け, 過去の行動の肯定感が低いほど, 周囲に良い印象を与えようとする傾向が高いことが示唆された。また, 過去の行動の肯定感是对自因子にも影響を与えており, 過去の行動の肯定感が低いほど自分に対する自信のなさが高まることを示唆された。いっぽう女性の場合は, 重荷が対自因子へ, 励みが対他因子へ正の影響を与えていたことから, 期待をかけられたときに自分がどう感じたかが影響していると考えられた。